

私たちの活動や意見を平和委員会のなかま たちに伝えます
私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています



土浦平和の会
ニュースNo. 225 2010年12月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 831-9122
<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>

母親連絡会「赤紙」くばり

今年も土浦駅ペDESTリアンデッキで

「赤紙」一枚で戦場に狩り出されたあの無謀な戦争を再び繰り返してはならないと、母親連絡会が太平洋戦争開戦の12月8日毎年訴えてきた「赤紙」くばりは、今年も16人の参加でハンドマイクで訴え、約500枚を配りました

「赤紙」一枚で狩り出された兵士たちのうち230万人が「戦死」し、そのうちの半数は餓死であったと言う事実さえ、長い間国民の多くは知らされていなかったのです。

「生きて虜囚の辱めを受けず」と玉砕していった兵士たちや非戦闘員たち。祖国の勝利のためと信じて散っていった「特攻隊員」たち。敗戦を目前に犠牲になった沖縄の民間人、東京をはじめ空襲を受けた全国各地の主要都市、ヒロシマ、ナガサキの被爆者たち。

戦争は自国の犠牲だけに留まらないことは言うまでもなく、アジアの3,000万人を犠牲にしてしまったのです。この事実を戦争を知らない若者に伝えて続けていきたい。



平和委員会は12月8日の朝日新聞に意見広告を掲載

米軍基地がなくなり、変わる沖縄! 意見広告

平和で豊かな生活をめざす、基地撤去のたたかいを支援しよう!

普天間基地の無条件撤去を勝ち取ろう!

在の普天間基地(宜野湾市)方の建物(2004年ヘリが墜落した沖縄国際大平)

北谷町の場合
(北谷町民より作成)

米軍基地がリゾート・商業都市に一変

■ 町民税・固定資産税	北前地区 3億1,579万円に	▲ 88.5倍に
	■ 雇員数	
■ 商業販売額	北前地区 1億8,959万円に	▲ 56.6倍に
	北前地区 1,114億8,700万円に	▲ 77.5倍に
	■ 雇用	
	北前地区 287億8,200万円に	▲ 18.9倍に
	北前地区 2,112人に	■ 雇員数
	■ 雇用	北前地区 1,278人に

那覇市新都心地区の場合
(那覇市資料より作成)

米軍基地が住宅・産業振興都市に変身

■ 町民税・固定資産税	2,500万円が	▲ 34億円に	▲ 136倍に
■ 人口	約1,000人が	▲ 18,977人に	▲ 19倍に
■ 雇用	196人が	▲ 7,168人に	▲ 36倍に
■ 生産誘先額	55億円が	▲ 874億円に	▲ 16倍に

これまでの米軍基地返還はごく一部です。

茨城県平和委員会

11・3 秋の宣伝行動 (土浦駅、右靱・摩利山)
11・17 平和の会理事会 (コープ)

12・8 母連「赤紙」くばり (土浦駅14時)
12・14 平和の会理事会 (コープ)

平和の会ニュース、平和かわら版 (PDF版) 配信しています
平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは 029-831-9122
早い、確実に届くご希望の方は eMa i l アドレスご連絡ください

私たちの活動や意見を平和委員会のなかま たちに伝えます
私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

ブラジルで初の女性大統領誕生

5年ぶりに訪れた初夏のブラジルは、大統領選挙の真只中でした。

03年から8年続いた中道左派のルラ大統領のあと誰が新大統領になるか、国内外からも注目された選挙でした。10月3日の投票では過半数を制した候補がいなかったため上位2人による決選投票が10月31日となって、約2ヶ月にわたる熱い選挙戦がブラジル全土で繰り広げられました。

決選投票はルラ大統領の後継者として与党・労働者党（PT）からの女性候補ジルマ・ルセウ氏と前サンパウロ州知事で野党・ブラジル社会民主党（PSDB）のジョセ・セラ氏の争いとなりました。結果は世論調査の予想通りルラ大統領の全面的な支援を受けたジルマ氏（62歳）が56%の得票率で勝利し、ブラジル初の女性大統領が誕生しました。（正式には2011年1月1日に就任）

貧困層対策や住宅、医療、教育など両者の政策の違いはそれほどないと言われていましたが、民営化や規制緩和については、セラ氏は推進の立場にあったようです。当選したジルマ氏はルラ政権下では官房長官を務め、軍事政権下時代には民主化の闘士として活動し、70年から3年間投獄された経験もあります。

ブラジルの選挙戦はテレビを通しての討論、政見放送や集会、ポスター、ステッカー、ビラ等日本の選挙とほぼ同じです。顔写真入りの大きなポスターや看板を塀や窓に貼り付けた家や候補者のステッカーやワッペンを貼り、旗を掲げて走る車など至る所で見かけました。なかにはワッペンを顔や衣服に張りめぐらす人もいました。大きな公園や交差点では運動員がカラフルな旗を振りかざし、候補者名の入った曲を歌って踊りながら、車や通行人にステッカー、チラシ、小旗などを配るなど、にぎやかで陽気に、明るくという点はいかにもラテン系といったところですが、また、リオやサンパウロなど大きな街での候補者を迎えるパレードや集会での熱狂ぶりもブラジルそのものです。

ブラジルは、与野党問わず国会議員から地方議員に至るまで汚職や地位利用、金銭疑惑は後をたたく、国民の政治や政治家に対する不信感は根強いものがあって、「誰がなっても同じだ」、「政治や選挙には関心がない」という人も結構いました。しかし、18歳から投票が義務づけられ、理由なくして投票を怠ると罰則が科せられたため誰もが選挙や政治に係わらずにはおられません。

この8年間、ルラ政権は国内的にはボルサ・ファミリア計画など貧困層への所得支援プログラムや住宅の供給、毎年の最低賃金の引き上（2010年は日本円で約2万5千円）など貧困層や労働者への手厚い社会保障政策を実施してきました。「ルラの貧困対策は税金のバラまきだ」、「人気取りで、選挙目当てだ」という人もいましたが、「この8年間ブラジルはずいぶん景気が良くなった」、「生活に余裕が出てきた」という声も多く聞かれました。実際、5年前と比べ、街並みや走る車を見ても、また、リゾート地での高級別荘マンションの建設ブームなどから、この国の経済の好調さを伺うことが出来ました。

ルラ政権の貧困層対策は個人消費を促し、内需中心のブラジル経済に大きく貢献し、金融危機の影響を最小限に止めた国として高く評価されています。外交面でも米国の言いなりにならず、途上国や非同盟諸国との関係強化や中南米地域共同体づくりの推進役、まとめ役として、また、14年のサッカーワールドカップに続き16年のオリンピックを誘致するなどブラジルの存在感を世界に示しています。ルラ大統領の支持率が80%以上という驚異的な数字も納得できます。

新しい大統領のもとで、米国の一国覇権主義を拒否し、弱肉強食の新自由主義路線から飢餓や貧困の克服、自主・民主の国づくりを目指す中南米諸国変革の流れの一翼を担うブラジルが、さらにその流れを加速させるとともに、ブラジルが今年5月の国連NTP再検討会議で核廃絶に向けて積極的な役割を演じたように、核廃絶や世界の平和にも貢献することを大いに期待するところです。

（茨城県平和委員会常任理事、土浦平和の会理事 近藤輝男）

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています

平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122
早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください